



こんにちは 東郷まさあきです

日本共産党

ご意見・ご要望をお寄せください
野洲市比江864 (☎589-4158)
2017年9月3日 No.64

日本共産党地方議員団が8月28日 切実な要求実現へ政府交渉



山下参院議員らと交渉しました(総務省)

日本共産党滋賀地方議員団は28日、政府の財政支援、制度の改善、自治体や市民の要求について、政府と直接交渉しました。交渉には伏木県会議員ら18名が参加。山下参院議員、穀田、宮本、堀内衆院議員、野洲市からは東郷正明ら党議員団らが参加しました。

◆文科省では、野洲養護学校など児童生徒の急増に対応するためには「設置者の裁量に委ねるのではなく、国が設置基準を設けるべき」と主張しました。また医療ケアが必要な子どもの通学保障については、「保護者支援ではなく、教育を受ける権利を保障していく」という問題であり、国が指導責任を果たすべき」と強く求めました。

学校給食費の負担軽減・無償化の自治体が広がっています。しかし学校給食法では「食材費及び水道光熱費は原則として保護者負担」という規定がネックとなっています。この指摘に対して文科省は「これは経費の負担をあらわしたもので、設置者が保護者にかわって給食費を負担することを禁止する趣旨ではない」と明確に述べました。

◆野洲病院建設にかかわる起債問題については総務省に対して、「市民が切実に願っている新病院建設の起債であり、柔軟な対応をするよう」求めました。総務省担当者は、病院を建設する場合、開設後の収支見通しがどうか、市の一般会計からの財源を含めて、収支を考えるが、困難な事態に陥らないような収支計画をつくる必要がある。起債については、県が認めることが大前提となるので県もこの点を重視している。いま公立病院の民営化等の動きの中で、民間の病院から公立の病院を建設しようとする野洲市の動きに注目している、と述べました。

対話による解決に 逆行する行為は中止を

日本共産党の志位和夫委員長は3日、北朝鮮が同日、核実験を強行したことについて、次の談話を発表しました。

「北朝鮮は本日、昨年9月に続く6回目の核実験を強行した。北朝鮮は、大陸間弾道ミサイル搭載の水素爆弾の実験を成功させた」と主張している。北朝鮮の核実験は、今年だけでも13回行った弾道ミサイル発射とともに、世界と地域の平和と安定にとっての重大な脅威であり、累次の国連安保理決議、6カ国協議の共同声明、日朝平壤宣言に違反する暴挙である。それは、国際社会が追求して

いる「対話による解決」に逆行する行為であり、核兵器禁止条約の採択など「核兵器のない世界」を求める世界の大勢に逆らうものである。日本共産党は、強い憤りをもって、この暴挙を糾弾し、抗議する。

「いまの最大の危険は、米朝両国の軍事的緊張がエスカレートするもので、当事者たちの意図にも反して、偶発的な事態や誤算などによって軍事衝突が引き起こされる現実の可能性が生まれ、強まっているというこ

とである。万が一にもそうした事態が引き起こされるならば、その被害は日本にも深刻な形で及びことになる。おびただしい犠牲をもたらす軍事衝突は、絶対に回避しなければならない。私は、8月12日に発表した「声明」で、現在の危機の打開のためには、米朝の直接対話が必要だと提起したが、それはいよいよ緊急で切実な課題となっている。

北朝鮮の核実験を厳しく糾弾する!

8月29日の国連安保理議長声明は、対話を通じた平和的で包括的な解決」を加盟国に呼びかけている。国際社会および日本政府に対して、米朝両国に直接対話をうながし、平和的・外交的な手段で核・ミサイル問題を解決するために、可能なあらゆる手立てをとることを強く要請する。

とくに日本政府が、「対話否定論」に固執する態度をあらため、「いまこそ対話に踏み切るべきだ」ということを米政府に説くことを、強く求める。

日本共産党演説会

◆9月16日(土)午後4時 ◆コミセンきたの

衆議院議員

清水ただし

お気軽にご参加ください

